

町の生活情報紙
— HIDE PUBLIC RELATIONS —

広報いいいで

1

13, January
2011
Vol.1006



卯

A HAPPY NEW YEAR

- 03 年頭のごあいさつ
- 04 国勢調査速報
- 05 新年号企画◎若者の群像
木村美和子さん(手ノ子)／小林努さん(中)／伊藤儀宝さん・伊藤奨悟さん(高峰)
- 12 まちかどNEWS
「にぎわい茶房」のぼり旗・ウェルカムボード交付式／高校生ボランティア福祉年賀状作成／プラス・クリニック
- 14 直伝おふくろの味
- 15 子育てファイル／あ～す図書室情報
- 16 ようこそ！わたしたちの倶楽部に／東京飯豊会から新年のごあいさつ
- 17 表彰受賞者の紹介／がんばりの軌跡
- 18 町県民税申告相談会のお知らせ
- 20 お知らせ／戸籍の窓／人の動き／編集後記
- 22 射撃界の頂点を撃て！
～山形県代表エアライフル射撃選手・樋口咲希さん～
- 24 町宝いいで～天養寺観音堂 木造聖観音立像～

町のホームページから

さらに情報を！

町からのお知らせや情報は、飯豊町ホームページ www.town.iide.yamagata.jp でも紹介しています。知りたい情報は、「検索キーワード」を、ホームページの検索ボックスに打ち込んでください。当該ページへ簡単に移動することができます。

こちらのボックスに「検索キーワード」を打ち込んでください。



表紙

今月の親子

手ノ子在住
 竹田直人さん(36歳)
 環さん(37歳)
 瞳彩ちゃん(4歳)
 桜葵ちゃん(10ヵ月)



左から桜葵ちゃん、直人さん、環さん、瞳彩ちゃん

竹田家にとって昨年の大ニュースは、桜葵ちゃんの誕生。妹が欲しかった瞳彩ちゃんも大喜び。毎日たくさん絵を描いて妹を楽しませてあげています。新年を迎え、お父さんとお母さんの願い事は、昨年今年も同じ。「子どもの健やかな成長」です。春になって親子4人で出かける日を楽しみにしています。



the most beautiful
villages
 in japan

飯豊町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。これからも美しい景観と里山文化に磨きをかけていきます。



年頭のごあいさつ 飯豊町長 後藤幸平

the greetings of the new year

環境と循環を軸足に農村社会と地方の再生を

写真／こどもみらい館を利用するお母さんと子どもたち

新年あけましておめでとうございませす。躍動のシンボルである卯の年を迎えました。

200年以上の間、外国との交易を幕府が制限する「鎖国」の時代を経て、明治、大正、昭和と、国際化と近代化の道をまっしぐらに進んできたわが国の社会。平成時代の幕開けから21世紀を迎えたとき誰しもが、紛争と緊張の世紀に区切りをつけ平和で豊かな社会の到来を期待しました。しかし、期待通りには行かない現実があります。そして今、環太平洋経済連携協定（TPP）というかたちで新たな「開国」を迫られています。

未来学者のアルビン・トフラーは、社会の歴史を「第三の波」に喩えました。第一の波は農業の波、第二の波は産業社会、そして第三の波は情報社会であるとして価値観が多様化する社会を予測しています。今まさに私たちは第三の波の只中にいるように思います。そして、食糧と産業技術と革新的な通信技術を手にした現代社会はどこへ向かい、どこへ向かうべきかが問われています。

田園と屋敷林が美しい散居村に、何頭ものクマが出没し対応に追われました。緑豊かな山並みにナラ枯れの被害が広がり、森林の保全が求められています。こうした課題に向き合うとき「環境と循環」という視点が重要であることをあらためて感じています。「環境と循環」に軸足を置く社会のモデル

は、農村社会の仕組みの中にあります。もし「第四の波」とは何かと問われるなら最初に「環境と循環に軸足を置く社会」を掲げたいものです。そしてそれは「農村社会と地方の再生」にあると確信しています。

本町は「田園の息吹が暮らしを豊かにするまち」を目指してまちづくりを進めてきました。本年は第四次の総合計画を策定します。第一次総合計画「手づくりのまちいいで」から三十七年を経た今、これから10年の海図を描いて出港します。特に若者定住と子育て支援、高齢者が安心して暮らせる地域力の創造、出会いと交流の拠点「にざわい茶房」事業、地域づくりへの女性参加、そして2年目を迎える木質バイオマスエネルギーの利用拡大事業、つや姫と牛肉、アスパラ、椎茸や山菜、どぶろくと飯豊町こくわワインなどたくさんのA級グルメを提供します。

地域主権改革と行財政の健全化の課題は、一歩でも自立する地方自治体の在り方を求めています。住民と行政が力を合わせて「仕事づくり」に挑みます。町民総合センター「あくす」の開館20周年の年、山形交響楽団の演奏など音楽のまちならではの記念事業を行います。大規模林道飯豊松枝岐線の開通を目前に控え、その活用を図ります。農村社会と地方の再生を目指して、歴史と芸術文化、人材養成に力を入れる飯豊町は、マンパワーを全開して、新たな一歩を踏み出します。



国勢調査速報

平成22年国勢調査飯豊町速報値集計結果

これまでの国勢調査から

町の人口と世帯数の推移



今回の国勢調査から

各地区の人口と世帯数

地区名	総人口 (人、%)		増減率
	平成17年	平成22年	
中	1,072	1,010	△5.78
萩生	1,856	1,711	△7.81
黒沢	695	625	△10.07
椿	1,330	1,303	△2.03
添川	1,164	1,037	△10.91
松原	235	232	△1.28
小白川	661	624	△5.60
手ノ子	756	651	△13.89
高峰	462	422	△8.66
中津川	392	328	△16.33

地区名	世帯数 (世帯、%)		増減率
	平成17年	平成22年	
中	275	269	△2.18
萩生	499	505	1.20
黒沢	179	176	△1.68
椿	354	360	1.69
添川	275	262	△4.73
松原	66	68	3.03
小白川	170	163	△4.12
手ノ子	207	189	△8.70
高峰	124	115	△7.26
中津川	150	126	△16.00

人口8,000人を切る 加速する人口減少

平成22年10月1日を基準日として、全国一斉に国勢調査が行われました。

飯豊町では80調査区47名の調査員の方々が各家庭を訪問し、町民の皆さんのご理解をいただきながら、調査が実施されました。

本町の平成22年国勢調査の速報値が集約されましたのでお知らせします。

飯豊町の総人口及び世帯数

町の総人口は7,943人、世帯数は2,233世帯でした。

平成17年国勢調査数値と比べると、総人口・世帯数共に減少しており、総人口は680人減少(7.89%減)、世帯数は66世帯減少(2.87%減)と、人口減少が加速しています。

一世帯あたりの人員は、3.56人で、平成17年の3.75人と比べ0.19人の減少となりました。

地区ごとの現状

地区ごとの調査結果をみると、前回に引き続き、人口は全地区で減少しています。特に中津川、手ノ子、添川、黒沢の人口減少が著しいことが読み取れます。しかし、世帯数は萩生、椿、松原で多少ですが増加している結果が得られました。

※速報値は、平成23年1月13日現在で町が集計したものであり、今後、総務省統計局から公表される数値と異なる場合があります。

※一世帯あたりの人員は、総人口を世帯数で除した数値であり、施設なども含まれています。施設などを除いた一般世帯に係る一世帯あたり人員については、総務省統計局が平成23年10月ごろに公表する予定です。



夢を抱き
町に生きる人たちの
姿を追う

若者の群像

reportage
people of the next generation
in Iide Town

本町をはじめ、地方は今、急速な人口減少の時代に直面している。そのため行政は、雇用創出・子育て支援、住宅・宅地の供給など、若者の定住対策に必死である。

だが、その一方で、若者自身が「生きがい」を見つけ、「働く意欲」を合わせ持っていないければ、それらの施策は生きてはこないだろう。

この企画では、飯豊町で「働き、暮らしていく」ことを決めた4人の若者の姿を紹介し、「若者の定住」とは何か、そのヒントを探る。

未来に向かって

一年を一步一步





夜、通りかかった一軒の家の明かりに目が止まり、木村美和子さん(手ノ子)は、仕事への喜びをじんわりと感じていた。

「ご家族の方の表情を知っているだけに、夕食後に家族団欒の時間を過ごしてると、想像が膨らんできて…」

それもそのはず、その家は、美和子さんが設計した家だから。

美和子さんは、(株)ホリエ(樫)で働く一級建築士。西置賜地域でも女性の一級建築士は珍しい存在だ。幼いころから大工の父親の背中を見て育ち、自宅にある木材の加工場が遊び場だった。木っ端は積み木代わり。父の本棚にある住宅雑誌をめくるのが楽しかった。小学5年生のときには「建築士になる」と宣言し、家族を驚かせた。

中学生のときのことである。設計図面を引いていた父の背後から、のぞき込み、「子ども部屋からしかペランダに行けないのは、子どもにとっても家族にとっても不便になると思うよ」とアドバイスした。感心した父はその意見を取り入れて設計を練り直した。

「自分の意見を採用してもらったのがうれしかった。家づくりの楽しさに目覚めたのはこのときか

らかもしれません」と美和子さんは振り返る。家の設計は、まるで家族の夢を描いているようだった。

高校進学は、迷わず県立米沢工業高等学校建築科を志願。女子生徒の入学はまだ珍しく、中学校の同級生の中では、女子は、美和子さんただ一人だった。

やがて高校3年生となり、進路を決める時期を迎える。建築業に飛び込むことに揺るぎはなかった。しかし、多くの若者が悩むように美和子さんもまた、地元に残るべきか、都会に出るべきか迷うことに。末っ子ということ、家を継ぐ」という感覚は持たずに育ってきた。しかし、三人きょうだいの兄と姉はすでに別の職に就き、家を離れ、独立していた。

最終的に、町に住み続けることを決めたのは、自分が本当にしたい仕事があるかを考えたときだった。「果たして大手のハウスメーカーに就職した場合、自分がやりたい設計の仕事をやらせてもらえるのだろうか」。そんな思いが美和子さんの頭をよぎる。それならば、小さな会社でも自分の能力を発揮できるところがいい。

決めた就職先は長井市内の工務

写真右／家の人たちが快適で楽しい生活を送っている様子を思い描きながら、美和子さんは設計図面を引いていく 写真左／会社の資材置き場で木材の確認をする美和子さん。必ず自分の目と足で現場を確認するようにしている



町に住み続けることを決めたのは、自分が本当にしたい仕事があるかを考えたとき。自分の能力を発揮できる職場だったから。

店。高校にきていた求人票から自分で選んだ。

だが、入社3年目で社会の試験に突き当たる。経営難から会社がリストラに踏み切ったのだ。美和子さんは失業を余儀なくされる。「ショックでしたが、くよくよしても仕方ないと、すぐにハローワークに向かっていました」

そこで見つけたのが今の会社だった。募集は、自分が希望する設計の仕事。だが、有資格者であることが条件。当時、美和子さんは建築士の資格を持っていなかった。当たって砕けるの精神で、面接に臨む。予想に反し、結果は採用。「入社後に速やかに資格を取ること」が条件だった。

新しい職場環境で、美和子さんはますます設計の仕事に意欲を燃やす。入社後間もなくして、約束どおり二級建築士の資格を取得。さらに自らの意志で、一級建築

士を目指すことを決意する。

「男性中心の建築業の中で、女性というハンディキャップを克服するためには、どうしても一級建築士の資格が自分の中では必要だった」と美和子さんは語る。

言うまでもなく難関な試験。1年間、仕事と勉強との二束のわらじを履いた。平日の仕事が終わると、まっすぐその足で山形市の夜間の講座へ通った。おのずと帰宅は真夜中に。日曜日にも休むことなく、日中開かれる講座に臨んだ。

その努力が実を結び、一発での合格を果たす。

「社長をはじめ職場の人たちの理解と支えがあったからこそ」と感謝の気持ちを忘れない。

さらに社内では誰も持っていないかった宅地建物取扱主任者の資格も取得した。

美和子さんは、これまでおよそ60軒の家の設計に携わってきた。

今、地元の工務店は、大手ハウスメーカーの進出によって厳しい競争の中にさらされている。不景気が厳しさにさらに輪をかける。

「目標をしっかりと持って、まだまだがんばらなければならぬ」と美和子さんは表情を引き締める。

一方、町内企業で働く魅力を美和子さんはこう語る。

「多くの人が顔見知りの町内では、みんなが温かく見守ってくれていて、『仕事がんばっているね』なんて声をかけてくださる方もいらっしやいます。お互い様の精神で、支え合っていることを実感します」

通勤の近さも魅力的だ。美和子さんは、2男の母でもある。長男は2歳、次男は4カ月になったば



一級建築士・町内工務店勤務

木村美和子さん

(手ノ子・32歳)

reportage_1

Kimura Miwako

きむら・みわこ◎1978年4月、手ノ子生まれ。(株)ホリエ設計主任。00年、同社入社。06年2月、一級建築士の資格を取得。建築士としてのモットーは「女性の感覚を大切にしたい家づくり」。夫、2男、父、母の6人家族。趣味は旅行だが、今は、子育てに夢中

かり。

「仕事が終われば、早く家に帰ってばあちゃんに代わって育児をすることが出来ます。町内で働くことは、子育てにとって理想的な環境」と美和子さんは話す。

仕事だけでなく、子育てという「生きがい」もこの町で見つけることができた。

母親の視点を備えたママさん建築士の次に設計する家が楽しみだ。



熊本市は、福岡市、北九州市に次いで九州地方で人口の多い中核都市だ。

「飯豊町の冬が一日中寒いように、熊本市の夏は朝も夜もうだるように暑い一日」と、花苗生産を営む小林努さん(中)は、生まれ育った地と本町との気候の違いをそう説明する。

就農のため本町へ転入してから今年で8回目の冬を迎えた。仕事場となるビニールハウス周辺の除雪を段取りよくこなし、「冬は雪が降るものと、気持ちがなじんできた」と笑う。

努さんは、もともと大手家庭用品メーカーに勤める会社員だった。18歳で入社し、最初の勤務地は酒田市の工場。洗剤の容器などを造る製造部門を担当した。

「酒田工場では従業員同士の仲間意識が強く、楽しく仕事ができていた。それに山形の穏やかな雰囲気自分が合っていました」努さんは、今も時間を見つけて酒田市の友人宅を訪ねるのを楽しみにしている。

同僚に恵まれ、仕事に対する自信が深まっていた2001年の冬、努さんに転職が訪れる。和歌山市の工場への異動の辞令

が下ったのだ。

「会社員として異動は真摯に受け止めなければならなかった。でも内心はかなりのショックでした。この先も転勤を繰り返すことになれば、いつ自分の人生の拠点を置くことができるようになるのだろうか」と……

和歌山工場は、酒田市のものよりはるかに大きいプラントだった。当然、従業員数も桁違いに多い。会話はもちろん、名前も知らない人の方が大多数。酒田工場と比べ、人間関係の希薄さに、努さんは物足りなさを感じた。

そんな折、知人の紹介で努さんは森林ボランティアに参加することになった。郊外の山での森林保護活動のほか炭焼きや畑作業などを体験した。それが努さんと農業との出会いだった。

「農業もまた、ものづくり」。畑仕事の体験を重ねるうちに、努さんは農業を本業にしたいと強く願うようになる。

決断は早かった。大阪市で開かれていたU・Iターン就職説明会へ。そこには、説明を聞きかっただ新規就農のブースはなかったが、東京会場にはあるとの紹介を受けた。

写真右／一つ一つ丁寧に差し芽していく。「植物が育つ環境を作るのが自分の仕事」と努さんは話す 写真左／市場は低迷し、園芸農家は厳しい経営下にある。努さんは、悲観せず、高く売れるために何が必要かを常に探求し続ける



好きなことでも飯は食っていける。
それに美しい風景に囲まれ、人と
して心地いい環境で仕事している
ことを実感できる。

新幹線で東京会場に赴くと、そこには本町の新規就農者を対象にしたブースが設けられていた。

そこで努さんが問うたのは一つ。「28歳の自分が、今ある資金を元手に、農業で食べていきますか?」。土地も技術も持たない若者が、新天地で農業を始めるのは大きな賭け。「やっていける」。きっぱりとした返事が返ってきた。

07年7月、努さんは意を決し、飯豊町へ転入。(右)後藤農場(後藤隆英社長・萩生)の元で花苗生産の研修をスタートさせた。翌年4月には、同じ萩生地内に土地を借り、ハウス1棟を建てて独立する。

しかし、農業経営は想像以上に厳しいものだった。いくら花苗を生産し、出荷しても思うように売れない。最初の3年間は、農業だけでは食べていけず、夜中にファミリーレストランでアルバイトを

して食いつないだ。

疲労だけがたまっていく中で、努さんは「みんなが作っている花苗を同じく作っていいは、高く売れない」と生産方針を切り替える。今は、プラチープやロータスなど寄せ植え用の花苗の生産に力を入れる。いずれも店ではなかなか手に入らない品種だという。出荷までには長いもので半年、短いもので3カ月程度の時間を要する。計画作りを入念に行って、資材購入の無駄を徹底的に省いていく。会社員時代に培った経験がここで生きる。そして生産したものほとんどを関東の市場へ出荷する。花苗は、希望通りの値で売れることの方が少ない。その分、高く売れたときは、自分の思いが評価されたと感じ、喜びはひとしおだ。努力の積み重ねで、確実に年々売り上げを伸ばしてきた。しかし昨年は猛暑に見舞われ大きく売り上げを落とす。それでも努さんは、「自営業は環境を責任にしているわけではない。結果はやはり自分の責任だから」と現実に目を背けない。目標は「去年の自分に勝つこと」だと言い切る。

農業はお客様からの注文があったて作るものではなく、自分で判断し作るもの。「ものづくり」への執

念が、努さんをプロの農家として磨きあげていく。

多くの新規就農者が飯豊町で農業にチャレンジし、現実の壁に当たり町を去っていった。厳しい現状にあっても、努さんは農業を始めたことに後悔していない。

「好きなことで飯を食っていいている。それに美しい風景に囲まれ、人として心地いい環境で仕事していることを実感できるから」



花苗生産・園芸農家

小林 努さん

(中・35歳)

reportage_2

Kobayashi Tsutomu

こばやし・つとむ◎1975年11月、熊本市生まれ。花苗生産者。11年間の会社員生活を経て03年7月、新規就農者として飯豊町に1ターン。年間約10品種の花苗を生産する。仕事のモットーは「環境に優しい農業」。趣味はマウンテンバイクと写真の撮り歩き。中在住

どんでん平ゆり園の展望台には小道がある。そこをマウンテンバイクで風を切って走るのが努さんの楽しみ。

若い農家の集まりである「風土会」で多くの農業青年と知り合えたこともうれしく思う。

「生活基盤を固めて、嫁さんを見つけるのが次の目標。熊本のもそれが心配の様子で…」

飯豊町に人生の拠点を置いた九州男児が、白い歯を見せた。



昨年4月、伊藤儀宝さん(高峰)と奨悟さん(同)兄弟は、テレビの画面に釘付けになった。それは、宮崎県で口蹄疫の発生を伝えるニュース。4カ月後に終息宣言されたものの、約29万頭の家畜が犠牲となり、今も現地の畜産農家の傷は癒えていない。「全国に広がってしまうのではないかと、恐れました。今も韓国で大発生している。油断はできません」と二人は警戒を怠らない。

兄・儀宝さんと弟・奨悟さんともに黒毛和牛の畜産農家。ただし、儀宝さんは肥育部門、奨悟さんは繁殖部門と担当が分かれる。「肥育」とは食肉を生産するための飼育過程を指し、「繁殖」は母牛(繁殖牛)から肥育牛または繁殖牛に供するための子牛を出産させて育成し、子牛市場に出荷するまでの飼育過程を指す。

現在、伊藤家では肥育牛115頭と繁殖牛50頭を飼育。互いの経営を分離し、独立採算制を採用。畜産のほか約6畝の水稲を栽培。今年はさらに2畝増える予定だ。田植えや稲刈り、畜産には欠かせないワラと籾殻集めの農繁期は、父母とともに家族総出で作業に当たる。昨年に肥育牛80頭を増頭し、

その忙しさに輪がかかった。

農業を最初に始めたのは、弟からだ。高校を卒業し、6年間に会社勤めをしていた。休日は当たり前のように農業を手伝う。兄も就職していたが、仕事で出張が多く留守がちになっていた。

農作業中、奨悟さんはふと気づく。それは少しづつそうに働く父と母の姿。

「親は確実に老いてくる。自分が専業農家になれば、将来の伊藤家にとって解決できることが多いような気がした」と奨悟さんは就農を決めたときの思いを振り返る。

奨悟さんは、畜産に力を注ぐことを初めから考えていた。農協などの関係機関に増頭を図るための補助事業がないか、相談する。しかし、その時は繁殖牛の導入の補助事業以外なかった。伊藤家ではこれまで繁殖牛を飼育した経験はない。それでも奨悟さんは「繁殖にチャレンジしたい」と父に打ち明ける。すると父は、「やってみるとは言えない。でも、お前が決めたなら止めない」と答えてくれた。06年、奨悟さんは就農し、50頭の繁殖牛を導入して畜産農家としてのスタートを切った。

繁殖牛の飼育が始まり、伊藤家

写真右／牛の頭を優しくブラッシングする儀宝さん。「まるで犬のようになってきます」と満面の笑みを浮かべる 写真左／畜舎の給餌を集める儀宝さんと奨悟さん。2人は兄弟であり、仕事の良きパートナーでもある



「チャレンジしたい」と父に打ち明けると、父は「やってみるとは言えない。でもお前が決めたなら止めない」と答えてくれた。

は多忙を極めるようになった。子牛の出産は真夜中になることもざら。さらに生まれたばかりの子牛は、人間と同じく抵抗力がないため、人の手をしっかりとかけて飼育してあげなければならぬ。

弟の奮闘する姿を見て、儀宝さんも時間を見つけては、畜産に携わるようになる。「弟と一緒に牛を世話しているうちに、家畜商だったおじいちゃんのことを思い出し、血が騒ぎ出した」と儀宝さんは畜産に魅せられていく。

今は亡き祖父が伊藤家で最初に畜産を始めた。後を継いだ父が牛を増頭させ、規模を大きくしてきた。

「生まれた子牛が丈夫に育ち、地元の方に高く買ってもらえたときがなによりもうれしい。それに牛がかわいくて」と奨悟さんは生まれたばかりの子牛の頭をなでて

みせた。儀宝さんも、ずっと手をかけてきた肥育牛の初めての出荷を年内に控え、その肉質の評価を楽しみにする。

「床屋に行く時間さえ見つけられないぐらい忙しい毎日。でも農業には、会社員時代にはなかった仕事のやりがいと楽しさ、心のゆとりがある」と儀宝さんは就農したことに誇りをのぞかせた。

だが、畜産業にも課題は山積する。二人は特に町内の繁殖農家の激減を懸念する。農家の高齢化と後継者不足が原因だ。川西町にある置賜子牛市場の上場頭数は減少傾向にあり、現状を放置すれば、市場が閉鎖されてしまうのではと危惧するのだ。

「耕作放棄地を利用した繁殖専門の牧野や団地を造成すれば、繁殖は盛り返すと思います。若い人の雇用の場にもなる」と奨悟さんは行政のでこ入れを期待する。

また、世間では環境への関心が高まる中、畜舎や堆肥舎から出る臭気の問題も取りざたされている。

儀宝さんは、「消臭に木材のおが粉は効果的。中津川の木質ペレット工場で作るおが粉が畜産農家に安く手に入れば、町の資源循環型

「農業は進展する」と指摘する。

繁殖牛と異なり、肥育牛は一戸当りの多頭化が進んでおり、おが粉など畜舎の敷料の確保は、肥育農家にとって逼迫した問題だ。森林資源の有効活用は「環境と調和のとれた畜産」に役立ちそうだ。

二人は互いを「仕事のパートナー」と認め合う。他方が忙しいときは、何も言わず助ける。

深夜に牛舎を見回って母牛を気

黒毛和牛肥育・畜産農家

伊藤儀宝さん

(高峰・32歳)

黒毛和牛繁殖・畜産農家

伊藤奨悟さん

(高峰・29歳)

reportage_3

Ito Yoshitaka / Shogo

いとう・よしたか◎1979年1月、高峰生まれ。10年間の会社員生活を経て07年から就農。仕事のモットーは「牛の変化を見逃さない」。趣味は甘いものを食べること
いとう・しょうご◎1982年11月、高峰生まれ。6年間の会社員生活を経て06年から就農。仕事のモットーは「子牛は守るように育てる」。趣味は仕事後のドライブ

にかける弟の姿を気の毒に思い、自宅の部屋からでもわかるようにと牛舎に監視カメラを備えつけてあげたのは兄だった。

地元で生まれた子牛を肥育してこそ本物の「米沢牛」だと奨悟さんは信じる。夢は「自分が育てた子牛が、兄の肥育によって枝肉市場でチャンピオンを獲ること」と語る。

兄はその横でほほ笑み、大きくうなずいてみせた。



伊藤儀宝さん(左)と伊藤奨悟さん(右)

まちかどニュースは、皆さんの広場です。
地域のできごとやご意見などお気軽にお寄せください。
役場総務企画課総務情報室まで ☎72-2111内線224



「にぎわい茶房」のぼり旗・ウェルカムボード交付式

民間の協力でにぎわいづくり

12月3日、役場で、にぎわい茶房協力店にのぼり旗とウェルカムボードが交付されました。にぎわい茶房とは、民間の店舗の協力を得て、町内外の人たちが気軽に集い会話を楽しむスペースづくりを図るもの。このたび、木精(椿)、ぼたじえ(萩生)、草刈商店(添川)の3店を認定。交付式に出席した草刈商店の店主草刈一郎さんは、「町のにぎわいづくりに協力していきたいです」と抱負を語ってくださいました。

プラス・クリニック

プロの奏者が直接指導



12月11日と12日に、町民総合センター「あ〜す」で、プロの金管楽器奏者によるプラス・クリニックがありました。「トウキョウ・ブラス・シンフォニー」コンサートの開催に合わせて特別に企画されたもので、11日は町内の小中学生14名、12日は町内外の方8名が参加。参加者の一人、飯豊中吹奏楽部部長の長谷部喬さん(萩生・中2)は、「高い音の出し方を教わり、とても勉強になりました」と感想を話してくれました。

高校生ボランティア福祉年賀状作成

良い年でありますように



12月11日、高校生ボランティアサークル「さんたくろ〜す」のメンバー4名が、福祉年賀状をデザインしました。この年賀状は、町内の一人暮らしの方に送られるもので、町社会福祉協議会が同サークルに依頼して毎年実施。4名は、干支のウサギをあしらった愛らしい年賀状を完成させました。メンバーの長岡あかりさん(中・高校1年)は、「良い年でありますようにと願いを込めて作りました」と話してくれました。



安心生活創造事業「安心見守り隊」出発式

店舗との協力で高齢者の安全を

12月22日、健康福祉センターで、「安心見守り隊」出発式が行われました。高齢者が安心して暮らせる地域の実現を目指し、町内48店舗の協力を得て高齢者世帯の見守りに取り組んでいくものです。式には協力店舗と安心生活創造委員会の方など約30名が出席。協力店舗に、“見守り”をPRするのぼり旗などが交付されました。また、町と郵便事業㈱は郵便配達時に高齢者世帯へ声かけなどを行う「ひまわりサービス」の協定書に調印。両者の連携も強化されました。

暴力団員の町営住宅等の使用制限に関する合意

安全な社会の実現のために



12月20日、後藤町長と石井和廣長井警察署長は、暴力団員の町営住宅などの使用制限に関して合意しました。目的は、町と警察との連絡体制を確立し、暴力団排除対策を推進すること。この合意によって、町は警察署への照会により町営住宅に入居しようとする人が暴力団員であるかどうかの確認が可能に。石井署長は、「安全・安心なまちづくりのためには、とても重要な合意です」とその意義を話されました。

第一小6年生「ふれあい天文学」講座

天文学に親しみと興味を



12月3日、第一小の6年生44名を対象に「ふれあい天文学講座」が開かれました。子どもたちに天文学に親しみと興味を持ってもらおうと行われたもので、国立天文台の佐々木晶教授が講師として来校。佐々木教授は月面や惑星の写真を示しながら、「惑星探索は地球の将来を予測するために大切なこと」などとやさしく解説。児童からは「宇宙がとっても身近に感じるようになりました」などの感想が聞かれました。



飯豊町こくわワイン新酒発表会
(めざみの里観光物産館)



飯豊ライオンズクラブ クリスマス奉仕活動 (町内幼児施設)



長井法人会飯豊支部社会貢献事業シラカン植樹 (でんでん隣)

直伝おふくろの味



大根のビール漬

簡単に作れるおいしい漬物

【材料】

◇大根	5キ
◇ビール(大瓶)	1本
◇砂糖	800 ^{グラム}
◇塩	1合
◇酢	1合
◇南蛮	適宜

【作り方】

- ① 大根は両端を切り落とし、皮をむく。
- ② ボウルにビール、砂糖、塩、酢を入れてかき混ぜ、好みで刻んだ南蛮を加える。
- ③ 漬物容器に大根を並べて入れ、②をかける。
- ④ 押し蓋をして重石をのせ、1週間ほど漬ければ出来上がり。

※色をつける場合は、漬け汁で市販の色粉を溶かし、④に戻してさらに1週間ほど漬ける。

塩分を控え、ビールと酢を加えることで長く保存が可能

81歳になる母親は漬物が得意で、中でも最も簡単にできるこの漬物を教わりました。塩分を控えながらも、ビールと酢を加えることで比較的長く保存ができるのが特徴です。

漬けるときのポイントは、できるだけ大根の大きさを揃えることです。漬物容器にあった大根を選び、もし太いものがあれば、縦切りで2等分して大きさを合わせます。そのようにすることで、漬け汁がどの大根にも均等に染み込むようになります。

また、漬けてから1週間して食べられるようになってからも、さらに漬物容器で保存する場合は、軽い重石に変えるとよいでしょう。ビールは賞味期限の切れたものでも大丈夫です。ぜひ有効利用してください。

簡単にできる漬物ですので、若い方も試してみたいかでしょうか。



東部地区
食生活改善推進員
船山栄子さん



こどもみらい館の予定表 (1月・2月の日程)

1月19日(水) 10:30~	ほのぼの講座
26日(水) 10:30~	栄養士さんの指導
27日(木) 10:30~	かんがるー広場
28日(金) 10:30~	音楽鑑賞
2月3日(木) 10:30~	豆まき
5日(土) 10:30~	ブックスタート広場
9日(水) 10:30~	おはなし広場



2月3日(木) 10:30~

鬼は外! 福は内! みんなで悪い鬼を追い払おう。こどもみらい館でお子様と一緒に節分を楽しみませんか。

episode

子育て応援談

kosodate ouendan

先人の貴重な助言

「三つ子の魂百まで」

子育ては親にとって人生の大事業。子どもにとってはそれこそ一生の問題です。

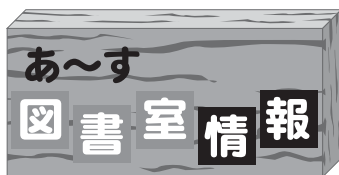
そこで思い出したいのが、「三つ子の魂百まで」のことわざ。先人が残してくれた子育ての貴重な助言です。

世の中がどう変わっても、子育てに一番必要なのは「親の愛情」。子どもは、純粋な感覚で愛情を受け止め、さらにその愛情が本物であるかどうかを敏感な感覚で見分ける力を持っています。愛情に制限はありません。幼いころに受けた愛情の深さが、子どもの成長に大きな影響を与えます。

食事や排泄、衣服の着脱などの基本的な生活習慣や物事の善悪もまた、幼いときにこそ、手を抜かず、しっかり教えることで身につけていくもの。「三つ子の魂」は、とってとても大切な時期なのです。

●こどもみらい館 ☎72-3336

開館日/火曜日から土曜日 休館日/月曜日、日曜日、祝祭日
利用時間/8:30~12:00、13:00~17:00



今月の おすすめ図書



児童図書

「アヤとひみつのプレゼント」

赤羽じゅんこ/作
つちだよしはる/絵 国土社

友達へ贈るプレゼントを、弟のタクに壊されてしまったアヤ。願いをかなえてくれる木に、プレゼントを元に戻してくれるよう、お願いすると3匹のねずみが現れて…。



児童図書

「オオカミゲーのなつかしいひみつ」

みやにしたつや/絵
きむらゆういち/作 童心社

群れのボスになることを夢見るオオカミゲーは、ボスと対決し、負けてしまう。子分も失ったゲーは、1匹のイタチに会って…。

一般図書

「手作り洗剤レシピ 重曹・酢・石けん」

岩尾明子/著 日本放送出版協会

漂白・カビ取りペーストから虫よけスプレー、消臭剤、抗菌石けん、歯磨きペーストまで、自然素材を徹底的に使いこなしした手作り洗剤のレシピを紹介します。NHKテキスト『住まい自分流』の内容をもとに単行本化。



一般図書

「佳代のキッチン」

原宏一/著 祥伝社

失踪した両親を捜すため、お客さんが持ってくる食材で料理を作る「移動調理屋」を始めた佳代。キッチンワゴンで両親ゆかりの地を巡るうちに、一風変わった注文やちょっとした事件も舞い込んで…。



●開館時間 午前9時~午後5時

●休館日 毎週月曜日・祝日

1月24日(月)~31日(月)までの期間は、蔵書点検作業のため臨時休業となります。

●問合せ先 町民総合センターあ~す図書室 ☎72-3111

ようこそ！ わたしたちの倶楽部に

スポーツ、音楽、芸術、史話、ボランティアなど町内には活動団体がたくさんあります。このコーナーでは、そんな皆さんの活動を紹介していきます。



シリーズ第1弾：スポーツ少年団

飯豊柔道スポーツ少年団

- ◆代表指導者／伊藤和範さん(添川)
- ◆指導者／小松光さん(萩生)、野口正良さん(添川)、樋口兼光さん(同)、飯豊柔道会の皆さん
- ◆団員／小学生13名、中学生16名

●スポーツ少年団入団などのお問い合わせは、町教育委員会内スポーツ少年団事務局まで☎72-3086（町民スポーツセンター）

- ◆練習日／毎週火・金曜日（19:00～20:30）
※中学生は毎週火・水・金曜日（19:00～21:00）
- ◆練習場所／町民スポーツセンター
- ◆団員募集対象／町内小学生・男女、中学生可
- ◆クラブのピーアール

柔道は、大人と子どもが一緒になって鍛え合うことができるスポーツ。「技を掛け合うことで、人の痛みを知り、思いやりの心が養えます」と代表指導者の伊藤和範さんは話します。

試合で技が決まり達成感に満ちた子どもたちの表情。それが指導者の皆さんのやりがいであり、柔道を教えてきて良かったと思う瞬間です。



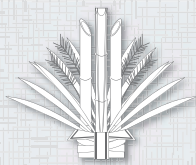
伊藤監督にとって柔道とは…

子どもの成長を
実感できるスポーツ

◀伊藤和範監督

東京飯豊会からふるさとの皆様へ 新年のごあいさつ

東京飯豊会会長 山口弘二



やまぐち・こうじ◎1938年2月、飯豊町大字宇津沢生まれ。元榎本田技術研究所主任研究員。30年間、自動車変速機の研究に携わり、シビックやアコードなどの開発を手がける。特許取得は37件にのぼる。埼玉県所沢市在住。2010年4月東京飯豊会会長就任

設立50周年を迎えて、記念大事業を計画

飯豊町の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年4月から東京飯豊会会長を引き受けました。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

飯豊町は後藤幸平町長のリーダーシップの下で皆様のご努力により、縮小している日本経済の中でほかの町と比べ非常に元気があり、活性化しているように感じています。今後さらなる発展を期待しております。

さて、東京飯豊会は飯豊町出身者の親睦団体で、会員約1,300名を擁し、年1回総会を開いて親睦を深め、情報交換を行っております。今年は設立50周

年にあたり、3月の総会には小白川の獅子舞を招いて盛大に行う予定をしております。

また、50周年記念大事業として、飯豊町に30本の桜の植樹を計画しています。東京飯豊会から苗木を寄贈して、町役場のご協力によりどんでん平ゆり園や白川ダム湖岸公園などに美しい花を咲かせたいと念願しております。きっと将来、町民の皆様の心の安らぎにつながるものと思います。

終わりに、皆様の今年一年のご健康と、さらなる発展をご祈念申し上げます。

第50回東京飯豊会総会・懇親会

日時／3月6日(日) 午前11:00 開会
場所／ホテル ラングウッド (JR日暮里駅南口下車)

更生保護の活動と啓発に力を注ぐ

長岡米次さん (中)

このほど、長岡米次さん(中)は、(社)全国保護司会連盟会長表彰を受賞しました。

長岡さんは、平成4年から保護司になられ、犯罪や非行を犯し社会復帰を目指す人たちの支援に、長年にわたって務めてこられました。平成19年には西置賜地区保護司会副会長および飯豊分会会長

グブチ沙漠の緑化活動に奉仕

井上泰助さん (萩生)

このほど、井上泰助さん(萩生)に日本沙漠緑化実践協会から感謝状が贈られました。当協会設立20周年を記念し、中国内モンゴル自治区グブチ沙漠の緑化活動に長年にわたって貢献した方に贈られたものです。

井上さんは、平成7年から平成17年の間12回、グブチ沙漠に通い、ポプラの

降雪量・積雪深観測業務に尽力

鈴木三千雄さん (下屋地)

このほど、鈴木三千雄さん(下屋地)に、山形県知事から「県土づくり」感謝状が贈られました。

鈴木さんは、県からの委託を受け、平成元年から今まで降雪量と積雪深の観測業務に従事してこられました。観測は、雪が降ると同時に行われ、積雪が溶けるまで休むことなく毎日行われています。

(社)全国保護司会連盟会長表彰

に就任。更生保護の啓発を通し、犯罪と非行を防ぐための地域づくりに中心となって取り組んでいらっしゃいます。

長岡さんは「青少年が非行や犯罪に走らないためには、家庭の役割がとても重要。両親が仲むつまじくあることが、明るい社会づくりの第一歩です」とこれまでの経験を振り返っていただきました。



表彰状を手にする長岡米次さん

日本沙漠緑化実践協会 会長感謝状

植樹による緑化活動に取り組んでこられました。活動はあくまでもボランティアで、旅費などはすべて自費。

井上さんは、「沙漠に植えたポプラが成長し、緑に溢れた風景を目の当たりにしたとき、自然の力強さにとても感動したものでした」と活動中の思い出を話していただきました。



感謝状を手にする井上泰助さん

山形県県土づくり 県知事感謝状

鈴木さんの正確な積雪状況の把握と迅速な情報提供は、安全で効率的な道路の除雪作業に大きく役立っています。

鈴木さんは「豪雪地帯にあっては、冬の道路の確保は住民生活の生命線ともいえます。自分の観測が少しでも地域に役立っているとすればうれしいです」と感謝状受賞の感想を話していただきました。



感謝状を手にする鈴木三千雄さん



◆めざみの里書初め大会

- ◇町長賞／小川みのり(飯豊中)
- ◇教育長賞／川村沙音里(第一小)
- ◇めざみの里賞
渡部京(飯豊中)
- ◇町観光協会会長賞
佐原詩乃(添川小)

- ◇山新賞／小山帆夏(添川小)
- ◇萩生郵便局長賞
土田嘉惟斗(第二小)
- ◇金賞／土田嘉哉斗(第二小)、渡部あや乃(第一小)、梅津優香(手ノ子小)、井上知夏(同)、島田由佳(飯豊中)
- ◇銀賞／平山絵理(添川小)、岡田実夕(手ノ子小)、齋藤耀(同)、齋藤麻衣(同)、石原花凜(第二小)、高橋空(飯豊中)、米野太郎弥(同)

- ◇銅賞／舟山晴斗(添川小)、舟山湧斗(同)、志田浩貴(同)、小池涼楓(同)、井上豪也(手ノ子小)、井上優也(同)、多田野怜良(第一小)、嶋貫佑平(飯豊中)、梅津真子(同)、土田嘉穂(同)
- ◇審査員特別賞／梅津あかり(萩生・長井高)、嘉藤キミ子(萩生)、伊藤恵(手ノ子)

(敬称略)

給与所得や年金所得がある方へ

check 3

- 持ち物／源泉徴収票

障がい者控除を受けられる方へ

check 4

- 持ち物／障がい者手帳

要介護認定を受けている方へ

check 5

要介護認定を受けている方で、「身体障がい者に準ずる者」と認定された場合、障がい者控除を受けることができます。ご希望の方は町健康福祉課福祉室(☎86-2233)に相談してください。対象となる場合には平成22年分「障がい者控除対象者認定書」が発行されますので持参ください(無い場合は障がい者控除を受けることができません)。

国民年金の保険料で社会保険料控除を受けられる方へ

check 6

- 持ち物

領収書または社会保険庁から発行された証明書
※領収書の添付や提示が義務付けられていますので、必ず持参してください

医療費控除を受けられる方へ

check 7

- 持ち物／領収書

※時間短縮のため、あらかじめ医療費の総額を計算してください。高額医療費がある場合や保険などでの補填金がある場合には、その金額が控除額から除かれますので事前に把握をお願いします。

申告に必要な書類について

documents

町からお送りする申告書が入った封筒裏面に必要書類を記載していますので、確認いただき、当日必ずご持参ください。必要書類のない場合は再度お越しいただくか、税務署に直接出向いていただく場合もごさいますので不備がないかも一度確認をお願いします。

①申告される方全員

- 町民税・県民税個人申告書
- 所得税確定申告書(送付されている方)
- 印鑑
- 源泉徴収票(給与・年金)

②各種控除を受けられる方

- 生命保険料支払証明書
- 個人年金保険料支払証明書
- 地震保険料支払証明書(平成18年12月31日までに締結した長期損害保険料支払証明書)
- 農業者年金の領収書
- 国民年金保険料の領収書
- 医療費の領収書
- 身体障がい者手帳など(該当者)
- 障がい者控除対象者認定書
- 寄付金を行った団体の発行する領収書

③農業・営業・不動産、そのほか事業所得申告者(①、②に加えて)

- 収支内訳書
- 米・野菜等出荷額明細書(農業所得者)
- 購買証明書
- 収支計算書(営業・そのほか事業所得者用)
- 収入、支出の内容がわかる帳簿
- 経費に係る各種領収書・証明書

④そのほか

所得税の振替納付や還付を受ける場合は、金融機関名・支店・口座番号がわかるものと通帳の届出印

電子申告 eLTAX のサービスが始まりました

町では昨年12月20日から、町税をeLTAX(エルトックス)で申告できるようになりました。eLTAXとは、自宅や事業所から町税に関する申告、申請、届出をインターネットを通じて行える仕組みです。

eLTAXを利用するには、インターネットができるパソコン環境と「電子証明書」を準備する必要があります。

◆利用可能な手続き(税目)

- 個人町県民税／給与支払い報告書、特別徴収に関する申請・届出など
- 法人住民税／中間・確定・修正申告、法人設立(設置)・異動届など

○ 固定資産税／償却資産の申告

◆電子証明書の取得

利用には、所有者を証明する情報などが記録された「電子証明書」が必要です。電子証明書は、役場住民税務課住民室窓口で発行する住基カードでも可能です。

ただし、税理士に依頼している場合は不要です。

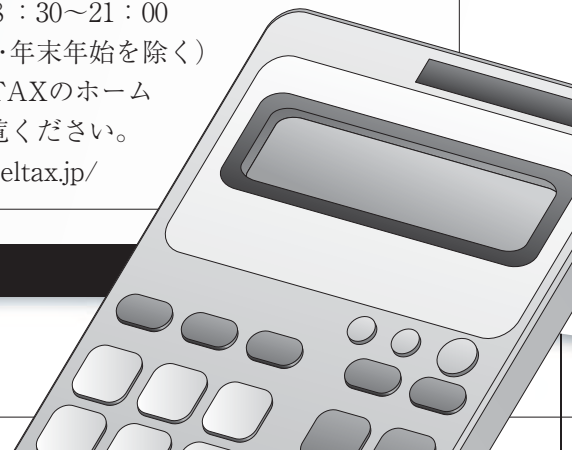
◆利用時間／8:30~21:00

(土・日・祝日・年末年始を除く)

詳細は、eLTAXのホームページをご覧ください。

<http://www.eltax.jp/>

☎ 役場住民税務課税務室 ☎72-2111内線128・129・130



町 県 民 税

申告相談会

2月7日(月)から開始



平成23年度の町県民税申告相談を下表の日程で行います。申告相談の際の注意点などをまとめましたので、ご覧の上、必要な書類の事前の準備をお願いします。

なお、所得税や町・県民税の申告は、町の申告相談会場に来ていただく方法のほか、税務署で申告する方法や自宅で作成し税務署に郵送する方法もあります。

税 申 告 相 談 日 程 表

s h e d u l e

月 日	会 場	午前の部 (9:00~11:00)	午後の部 (13:30~15:30)	
		相談対象地区	相談対象地区	
2月7日(月)	西部地区公民館	町上(手ノ子)・町下	町中・向原	
8日(火)		八幡・落合・向原北・荻	西高峰・中通・橋本	
9日(水)		東向・西向		
10日(木)	東部地区公民館	上町・昭和	上代・下川原	
14日(月)		東山・中洞	下町・大旦	
15日(火)		松原		
16日(水)	町民総合センター 「あ〜す」	農業青色申告者(中西以外の中地区)	農業青色申告者(中西・小白川・中津川)	
17日(木)		農業青色申告者(萩生)	農業青色申告者(黒沢・高峰)	
18日(金)		農業青色申告者(椿)	農業青色申告者(添川・松原・手ノ子)	
22日(火)		駅前・上野(椿)	高柳・坪沼・五反田・二本松	
23日(水)		厚生・坂ノ下	諏訪・小原・下椿	
24日(木)		椿第一・辻	財津堂	
25日(金)		上郷・中郷	十文字・上野(小白川)	
3月1日(火)		下野・北上野・野山		
2日(水)		中津川地区公民館	岳谷・岩倉・川内戸	白川・下屋地・宇津沢
3日(木)			上原・遅谷・数馬・広河原・小屋	
4日(金)	中部地区公民館	深淵西・深淵東	吉長・旭・叶内	
7日(月)		中西・北酒町	中北・南新田	
8日(火)		谷地田・酒町・沖	北新田・中ノ目北	
9日(水)		高野・寺分・いいでハイツ	町西	
10日(木)		町上(3組・三本柳)	町上(1組・2組・二反田)	
11日(金)		萩生町	石原(石原・石箱)	
13日(日)		3月11日までに来れなかった方(農業青色申告者を除く)		
14日(月)		石原(才川・栄・和合・原尻)	中ノ目南	
15日(火)		まだ申告が済んでいない方		

白色申告で農業所得がある方へ

c h e c k 1

収支計算による申告です。

- 持ち物/出荷証明書、購買証明および土地改良費などの領収書類
- ※なお、帳簿などで収入と経費を管理されている方や収支内訳書に記入されている方は不要です

農業・営業・不動産など事業所得のある方へ

c h e c k 2

■持ち物

- ①収入を確認できるもの
出荷証明書、売上帳票、伝票、帳簿など
- ②経費を確認できるもの/購買明細書、仕入明細、レシートなどの領収書・請求書・帳簿など

飯豊町役場

電話 0238-72-2111
FAX 72-3827
ホームページ www.town.iide.yamagata.jp
Eメール iide-info@town.iide.yamagata.jp



「あ～す」	☎72-3111	社会福祉協議会	☎72-3353	東部地区公民館	☎74-2447
町健康福祉課	☎86-2233	ひめさゆり荘	☎74-2011	西部地区公民館	☎75-2111
介護老人保健施設	☎86-2117	スポーツセンター	☎72-3086	中津川地区公民館	☎77-2020
国民健康保険診療所	☎72-2300	中部地区公民館	☎72-2126	飯豊駐在所	☎72-2245
附属中津川診療所	☎77-2330	白樺地区公民館	☎72-2242	中津川駐在所	☎77-2110

提言募集

「わたしたちのまちと選挙」

統一地方選挙が4月に行われます。そこで選挙の大切さを訴え投票を呼びかける提言(800字以内)を募集します。

◆応募方法/住所・氏名・年齢・性別・職業(学校名、学年)・電話番号を記入の上、下記までご応募ください。電子メールでも応募できます

◆締切/2月10日(木)当日消印有効

◆表彰

- 最優秀作品(1点) 表彰状・副賞(5万円分の図書カード)
- 優秀作品(4点) 表彰状・副賞(1万円分の図書カード)

◆応募対象/山形県内にお住まいの方

◆応募・問合せ先/山形県選挙管理委員会事務局 ☎023-630-2081
ysenkani@pref.yamagata.jp

置賜広域行政事務組合
指名競争入札参加登録申請

置賜広域行政事務組合では、下記のとおり指名競争入札参加登録申請を受け付けます。

◆平成23・24年度分

- ①建設工事
- ②設計・測量コンサルタント

◆平成23・24・25年度分

- ③物品納入および役務提供

◆受付期間

- ①、②：2月1日(火)～18日(金)
 - ③：1月17日(月)～2月4日(金)
- ※郵送の場合は当日消印有効

◆申請方法/必要書類などの詳細はホームページをご覧ください
<http://www.okikou.or.jp/>

◆申請・問合せ先

置賜広域行政事務組合総務課庶務係 ☎0238-23-3246

飯豊学講座

いいで地域史学習会

◆第1講座(歴史部門1)

◇日時/1月22日(土)13:30～16:00

◇講師/米沢市教育委員会文化課
青木昭博氏

◇テーマ/戊辰戦争と米沢藩

◆第2講座(歴史部門2)

◇日時/1月29日(土)13:30～16:00

◇講師/河北町真宗阿弥陀寺住職
北島教爾氏

◇テーマ/置賜仏教の歴史と文化を考える～村山地方と比較しながら～

◆第3講座(考古部門)

◇日時/2月5日(土)13:30～16:00

◇講師/新潟県胎内市教育委員会生涯学習課 水沢幸一氏

◇テーマ
中世館の発掘調査と保存整備

◆場所/町民総合センター「あ～す」

◆参加費/1講座500円(資料代)

◆申込・問合せ先

役場教育文化課生涯学習振興室
☎72-2111内線160・162

山形県特定(産業別)最低賃金

県内で次の事業に従事する労働者(臨時、パートタイマー、アルバイトなどを含む)に適用される特定(産業別)最低賃金が改正されました。

なお、下記に該当しない労働者は、山形県最低賃金(1時間645円)が適用されます。

	最低賃金	効力発生日
電気機械器具等製造業	1時間 723円	22.12.25
一般産業用機械等製造業	1時間 736円	
自動車・同附属品製造業	1時間 738円	
自動車整備業	1時間 740円	

◆相談・問合せ先/山形労働局労働基準部賃金室 ☎023-624-8224

西置賜地区県立高校
再編整備計画地域説明会

◆日時/2月4日(金)19:00～20:30

◆会場/町民総合センター「あ～す」

◆内容

西置賜地区の県立高校再編整備計画の骨子説明と質疑応答

◆参加方法

直接会場へお越しください

◆その他

- 託児サービス(無料)を実施します。ただし、事前に申し込みが必要です
- 地域説明会は、西置賜1市3町で開催します。どの会場へも参加できます
- 詳細は県ホームページをご覧ください

◆問合せ先

県教育庁高校教育課高校改革推進室
☎023-630-2493

みどり環境公募事業を
募集します

平成23年度みどり環境公募事業による県民参加の森づくり活動の募集を行います。

◆支援する活動内容

平成23年度中に実施する取り組み

- ①森林・自然環境学習
- ②自然環境の保全活動
- ③豊かな森づくり活動
- ④森林資源の利活用

◆募集締切/2月21日(月)まで

※応募方法などの詳細は下記まで

◆問合せ先

役場産業振興課農林整備室
☎72-2111内線270・271
置賜総合支庁森林整備課森づくり推進室 ☎0238-35-9053

こせきのまど
戸籍の窓

(12月届け出分)

ご結婚おめでとうございます

住所	氏名
(長井市) 田林賢太郎さん	島津知美さん
(中) 安部裕次さん	松村潤子さん
(川西町) 小野真毅さん	高橋愛香里さん
(萩ノ生) 手塚裕樹さん	萩原麻耶さん
(愛媛県) 梶原麻耶さん	國井修さん
(山形市) 樋口有美さん	

お誕生おめでとうございます

住所	氏名	ご両親
中 大谷部 蒼空くん	(裕太 紗織)	
中 佐藤 悠花ちゃん	(健比古 光)	
萩生 五十嵐 莉心ちゃん	(俊衣 由)	
中 大谷部 麗奈ちゃん	(春樹 沙織)	
萩生 島貫 琉嘩ちゃん	(嘉杏 郎子)	

心からおくやみ申し上げます

住所	氏名	年齢
松原 勝見 吉郎さん	86	
添川 大旦 伊藤 きみよさん	81	
手ノ子 向原 木村 千代子さん	82	
黒沢 叶内 手塚 勇右衛門さん	76	
添川 (めい) 安 仲慶 二さん	84	
添川 (めい) 後藤 敏英さん	84	
中 北酒町 舟山 はつゑさん	94	
中 中西 熊谷 春子さん	85	
添川 上代 鈴木 藤志雄さん	63	
添川 上町 小池 やのさん	94	

※この欄に掲載を望まない場合は届出の際にお申し出てください。

人の動き

		12月分	() 内は対前月比		
世帯数	2,387	(-1)	転入	10	
人口	男	3,980	(-4)	転出	18
	女	4,217	(-8)	出生	5
計	8,197	(-12)	死亡	10	

山形地方法務局からの
お知らせ

山形地方法務局米沢支局において取り扱っておりました「帰化許可申請事件等の国籍に関する事務」につきましては、1月4日から山形地方法務局戸籍課のみにおいて取り扱うこととなりましたのでお知らせします。

不明な点やご相談される方は下記までお問い合わせください。

◆問合せ先

山形地方法務局戸籍課国籍係(山形地方合同庁舎内) ☎023-625-1362

事業主の皆さんへ
子育て支援の計画策定について

4月1日から次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」の策定・届出が従業員101人以上の事業主に義務付けとなります。山形労働局では、個別相談会を開催します。

◆期日/1月17日(月)、24日(月)

2月以降は毎週月曜日開催予定

◆時間/10:00~16:30

◆会場/山形労働局相談室

(山形市 山交ビル3階)

◆申込方法/事前に下記へ電話予約

◆問合せ先/山形労働局雇用均等室

☎023-624-8228

手話まつりを開催します

◆日時/1月22日(出) 10:00~16:00

◆場所/山形ビッグウィング(山形市)

◆対象/どなたでも参加でき、申込みも不要です

◆内容/ミニ手話教室、ろう体験コーナー、映画「ゆずり葉」上映ほか

◆問合せ先/山形県健康福祉部障がい福祉課 ☎023-630-3303

相続登記はお済みですか?
県内一斉無料相談会

◆日時/2月19日(出) 10:00~16:00

◆会場

○米沢市すこやかセンター

○川西町中央公民館

○長井市民文化会館

◆相談例

○不動産を相続したが、手続きの仕方がわからない

○登記名義人が先々代の名義のままである など

◆相談料/無料

◆問合せ先/山形県司法書士会

☎023-623-7054

長井警察署からのお願い
110番のかけ方について

110番は県内どこからかけても、山形市内の警察本部につながります。

◆110番の仕組みについて

県内の110番はすべて警察本部の通信指令課で受け付けています。通報を受けている間にも無線で指令し、警察官が現場に向かっています。

◆落ち着いて通報を

はじめに何があったか(交通事故、盗難被害など)をお話ください。係員が順次必要なことをお尋ねしますので落ち着いてお答えください。

◆携帯電話の場合は

感度の良いところで、必ず立ち止まってお掛けください。車を運転中の方は、停止してから110番をお願いします。

◆緊急性のない相談やお問い合わせは下記まで

☎#9110または☎023-642-9110

長井警察署 ☎84-0110

◇「電子書籍元年」と言われた昨年、iPADなるもの(まだ実物を触れたことも見たこともありませんが...)の出現で、本、雑誌、新聞の電子化が加速しています。時代の波が押し寄せ、いざ「広報い」でもワン・クリックで家庭に届けられることになるのでしょうか。▽また、今年7月にはアナログ放送が終了し、テレビは「地デジ化」に。私たちは、めまぐるしい変化と膨大な情報量の中に立たされています。どうか平穏な一年でありますように。▽本年も弊紙をご愛読くださいますようお願い申し上げます。(横山)





ゼロ コンマ0mm単位で競うアスリート 射撃界の頂点を撃て！

山形県代表エアライフル射撃選手

ひぐち さき
樋口 咲希 さん

中出身・大学1年生

本町出身の樋口咲希さんは、大学で勉強に励む傍ら、
エアライフル射撃選手として活躍する。
知られざるエアライフル射撃の魅力と
今年目標などについて話を伺った。



実際に競技で使われている標的と弾。その小ささに驚く

10m先から中心を射抜く

標的の外円の直径は、4.5センチならず。10cmも離れた場所からその中心の10点圏を狙う。「引き金を引く指の角度がずれたり、力加減を誤ると、的を外してしまうことになりませう」本町出身のエアライフル射撃選手、樋口咲希さんは、エアライフル射撃の難しさをそう話す。

「10mエアライフル立射40発競技」が、咲希さんの種目。

競技には、「伏射」「立射」「膝射」の3姿勢があり、「立射」はそのうちで最も難しいとされる。1時間15分の制限時間の中で40発を撃ち、点数を競う。最高は400点満点。着弾点が中心に近いほど高得点であり、決勝では0.1点単位まで測定される。100m走がコンマ0秒単位ならば、ライフル射撃はコンマ0.1単位で競い合う。

悔しさをバネに成長

咲希さんは、2007年県立南陽高等学校入学とともに、射撃部の門を叩いた。中学校までは剣道部に所属し、特にライフル銃に関心があったというわけではない。

「射撃を始めたのは、友達に誘われたのがきっかけです。高

校に入って新しいことを始めるのも悪くないなあ、くらいの気持ちでした」とはにかむ。

初めは興味本位でも、やがてその奥深さに魅せられ、のめり込むことに。めきめきと実力をつけ、高校2年生の夏、山形県代表として国体に初出場。全国の結果は11位。入賞を逃した。「とくにかく悔しかった。次の試合では絶対に入賞すると自分に誓いました。ライフル射撃に本格的に打ち込むようになったのはあの大会からです」

千葉国体で準優勝を果たす

昨年4月、明治大学農学部入学のため上京。現在は、同大有会射撃部に所属し、勉学の傍ら、週5日の練習メニューをこなす日々。筋肉トレーニングやランニングなど体力づくりも欠かさず、練習中の射撃では弾を無駄にしないようにと一発一発にも気を抜かない。

せっかくの学生時代、休日もライフル射撃の練習ではさみしくないかと尋ねると、「自分で決めたことだから」と歯切れの良い返事が返ってきた。

咲希さんは昨年、一つの成果を成し遂げた。9月に行われた千葉国体での準優勝。山形県代

ライフル射撃はメンタルの競技

表として出場し、あの高校2年生の時の大会での雪辱を果たした形だ。

しかし、「常に優勝を目指し、試合に挑んでいる」という咲希さんにとっては必ずしも満足する結果ではなかったのかもしれない。トップとの差は、僅差の4・2ポイント。さらなる向上心が彼女を奮わせる。

求められる強靱な精神力

「ライフル射撃はスポーツでありながら、メンタルの競技」と咲希さんは言い切る。選手に求められるのは精神面の強さ。

着弾点が期待通りに定まらず、競技中、心が折れてしまうこともあるという。それでも咲希さんは「ここであきらめたら後悔する」と自分に言い聞かせ、意志を盛り返す。あきらめた時点で勝負はつくからだ。

試合前は、チョコレートを食べたりリラックス。競技中、理想どおりの射撃ができていればリズムを崩さないために一時間以上、立ちっぱなしで引き金を引き続ける。しかし調子が乱れば、イスに座りイメージを取り戻し、フォームを立て直す。

競技中、フォローしてくれる人は誰もいない。選手の集中力を乱さないために、声援も禁じら

れている。ライフル射撃は、選手段というよりも、「自分との戦い」にほかならない。

試合後は、自分の中で良かった点と反省点をノートに必ず書き留める。次の試合で生かすためだ。

今年の目標は国体優勝

高校時代から技術的なアドバイスを送り続けてきた山形県ライフル射撃協会強化部長の酒井正人さん（山形市）は、咲希さんをこう評価する。

「実に芯の強い子。自分のやることに一直線。だからこそ自分の持っている射撃のイメージを大切にして試合に臨んでいてもらいたい」

性格は「負けず嫌い」だと咲希さんも自己分析する。試合を重ねるうちに、勝負強さが身についてきたとも。

目標は、今年10月に開催される山口国体での優勝。さらにはアジア大会やヨーロッパで行われる学生大会など、世界で自分の実力を試してみたいとも願う。「勉強もすっかりやらなければなりません。それがこままで支えてくれた家族への恩返しでもあるから」

アスリートが見せた19歳のほほ笑みだった。

Higuchi Saki

Firing Athlete



PROFILE

ひぐち・さき◎1991年10月、神奈川県生まれ。就学前に家族と共に飯豊町へ転入。高校生まで中で育つ。父母兄妹の5人家族。現在は明治大学農学部生命科学科に在籍し、神奈川県で学生生活を送る。趣味は、読書。好きな言葉は「有言実行」。苦労して育ててくれた両親を尊敬する

文化財は、郷土の歴史、民俗、信仰、自然を物語る町の宝。継承し守り続けている人たちがいるから輝く価値がある。



写真/木造聖観音像は、観音堂内の宮殿の中で厳かに安置されている

Treasures in Iide Town

4

selection

天養寺観音堂 木造聖観音立像

しょう かん のんりゅう ぞう

昭和35年度山形県指定文化財（彫刻）指定

解説

天養寺観音堂 木造聖観音立像

天養寺観音堂は、古くから「中村の観音様」と呼ばれ親しまれてきた。創建には古い由来があったものと思われるが、今は言い伝えさえ失われている。ただし室町時代に再建したことが判明している。昭和55年度には、全面的な解体修理工事を実施した。

木造聖観音立像は、像高176.9cm。桂の一木彫成による聖観音とみられるが、欠損のため明確に決定しがたい。造像法は古様で、平安時代後期の作と推定される。昭和63年に京都の仏師によって大修理を行った。堂々とした体躯と豊かな頬、慈愛に満ちた顔容が特徴。

天養寺観音堂は昭和30年8月に有形文化財（建造物）として、木造聖観音立像は昭和35年12月に有形文化財（彫刻）として、それぞれ県指定を受けた。

Interview

守り続ける人たち



天養寺観音堂 堂守
長岡恒有さん
(中)

懐かしまれる当時の初詣のにぎわい

置賜三十三観音の一つである天養寺(中村)観音堂には、毎年、県内外から多くの巡礼者が訪れてくださいます。

その一方で、檀家数は25世帯にまで減少し、今は7名の役員でお堂の雪下ろしをしたり、地域の人たちの協力を得て周辺の草刈を行うなどして、お堂を守り続けています。

観音様の御開帳は、7月17日の例祭と元旦に行っています。

私たちが幼少のころ、中地区の多くの住民が初詣で中村観音堂を参拝したものでした。お神酒の振る舞いや飴売りの出店もあつたりして、とてもにぎわっていました。

残念ながら時代の経過とともに、初詣にいらっしゃる方はめっきり少なくなりました。